



# 第55期 中間事業報告書

平成19年4月1日から  
平成19年9月30日まで

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第55期上半期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

平成19年12月



代表取締役社長

佐野 實

### 目 次

株主の皆さまへ	2
企業集団の現況に関する事項	2
部門別の概況	3
中間配当金	3
通期の見通し	3
中間連結貸借対照表	4
中間連結損益計算書	5
中間連結株主資本等変動計算書	5
中間連結キャッシュ・フロー計算書	5
中間貸借対照表	6
中間損益計算書	7
株式の状況	7
TOPICS	8
会社の概要	10
株主メモ	11

### 企業集団の現況に関する事項

当中間期のわが国経済は、原油価格高騰や金利上昇が懸念され、また個人消費の足踏み状態も続くなど不安材料が高まるなか、一方においては底堅い設備投資に支えられ、総じて緩やかな回復基調のもとに推移しました。また医療業界におきましては、かつてないほどの変革期を迎えつつあるなか、当社は常に技術革新を心がけ、独自の視点から先進的な医療機器の開発を推し進めるとともに、注射剤事業の他、経口剤事業にも注力し、さらには人工臓器や再生医療の分野においても世界に認められ世界をリードするブランドおよび真のグローバル企業を目指すべく邁進してまいりました。

この結果、当中間期の連結売上高は842億88百万円となりました。なお前年同期比では15.9%の減少となりましたが、この主な要因は、前期における小売部門からの撤退に伴うストア部門の売上高（前年同期売上高264億28百万円）が減少したことによるものであります。セグメント別では、医療機器部門が541億96百万円（前年同期比18.1%増）、医薬品部門が243億96百万円（前年同期比20.0%増）、器材部門が53億65百万円（前年同期比23.6%減）、その他部門が3億30百万円（前年同期比45.0%減）となりました。

利益面におきましては、連結営業利益は前年同期比25.1%増加の74億32百万円、連結経常利益は前年同期比34.2%増加の65億37百万円となりましたが、連結中間純利益につきましては、特別利益等の減少により、前年同期比17.1%減少の33億28百万円となりました。

以下、部門別の状況についてご報告申し上げます。

### 医療機器 部門

国内販売におきましては、ダイアライザーの機能分類化、医療機関における医療費抑制が一層強化され、また市場における消耗品の共同購入等の促進、他社との販売競争、価格引下競争の激化等、厳しい経営環境のもとに推移しました。このような状況

下で、販売効率の一層の向上を図り、営業人員の増強に努めたほか、人工腎臓用、循環器治療用、注射・輸液用、検査用の新製品の開発と市場展開、システム販売など積極的な事業拡大を推進し、シェア拡大と売上高の拡大を図ってまいりました。

一方、海外販売におきましては、各拠点における販売組織の拡充と商品専門職の強化を行ったことにより新規顧客の獲得を達成するなど、積極的な事業拡大を推し進めました。人工肺分野では、海外30カ国において販売を開始し、透析関連分野では、透析装置の品種増加による市場対応の強化を実施してまいりました。その他透析関連消耗品では、品質向上と価格競争力の増強により販売拡大に努めました。また注射関連製品で昨年度を大きく上回る結果となったほか、OEMビジネスにおきましても、新製品の投入により好調な伸びを示すことができました。

この結果、当部門の売上高は541億96百万円（前年同期比18.1%増）となりました。

### 医薬品 部門

医薬品部門におきましては、年々増加する医療費に対する行政の抑制政策に加え、競合他社品との販売競争の激化等により、市場はきわめて厳しい状況のもとに推移しました。

このような厳しい環境下において、当部門は人工腎臓用透析液粉末製剤、ろ過型人工腎臓用補液キット製剤、プレフィルドシリンジ製剤などの拡販に努めるとともに、「液・粉」のダブルバッグキット製剤、プラスチックアンブル製剤などの積極的な売上拡大に努めた結果、きわめて堅調な伸びを示しました。

この結果、当部門の売上高は243億96百万円（前年同期比20.0%増）となりました。

### 器材 部門

医薬用硝子におきましては、アンブル用硝子管は国内需要の低迷により減少しましたが、管瓶用硝子管等は医薬用、化粧品用容器として堅調に推移し、カートリッジ、プレフィルドシリンジについても好調に推移しました。一方、硝子器材におきまして

は、魔法瓶用硝子は輸出向けは健闘しましたが、国内需要の落ち込みにより減少しました。また、照明用硝子管等は、液晶パネルメーカーの在庫調整とコストダウンの影響によりバックライト用硝子および関連部材が大幅に減少しました。

この結果、当部門の売上高は53億65百万円（前年同期比23.6%減）となりました。

### その他 部門

その他部門におきましては、主に医療機器製造機械等の販売および不動産賃貸により、売上高は3億30百万円（前年同期比45.0%減）となりました。

#### ■中間配当金

中間配当金につきましては、先般ご通知いたしましたとおり、平成19年11月19日開催の取締役会決議により、1株28円とさせていただきます。

#### ■通期の見通し

今後のわが国経済は、原油価格の高騰や金利上昇などのほか、急激な為替変動等の影響が予想され、厳しい経営環境のもとに推移するものと予想されます。しかしながら、引き続き新製品の開発に注力しつつ、各部門における生産力・販売力の強化を推し進め、業績向上を図ってまいります。

通期の見通しといたしましては、連結売上高1,620億円（前期比12.1%減）、連結営業利益141億円（前期比8.0%増）、連結経常利益130億50百万円（前期比14.9%増）、連結当期純利益66億円（前期比22.9%減）を見込んでおります。

## 中間連結貸借対照表

(単位 百万円)

期 別 科 目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前 期 末 (平成19年3月31日現在)
<b>[資産の部]</b>			
<b>流動資産</b>	<b>142,652</b>	<b>143,704</b>	<b>147,233</b>
現金及び預金	43,240	34,876	47,934
受取手形及び売掛金	48,626	54,785	50,972
たな卸資産	43,214	45,469	40,213
繰延税金資産	3,639	3,062	3,033
その他	4,382	6,020	5,581
貸倒引当金	△ 450	△ 510	△ 501
<b>固定資産</b>	<b>177,081</b>	<b>198,263</b>	<b>189,426</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>102,476</b>	<b>118,330</b>	<b>104,881</b>
建物及び構築物	39,119	45,254	38,113
機械装置及び運搬具	29,585	35,298	31,105
土地	18,408	19,242	18,032
建設仮勘定	10,717	13,573	12,856
その他	4,644	4,961	4,773
<b>無形固定資産</b>	<b>1,618</b>	<b>2,711</b>	<b>1,902</b>
のれん	260	887	240
その他	1,358	1,824	1,661
<b>投資その他の資産</b>	<b>72,985</b>	<b>77,221</b>	<b>82,642</b>
投資有価証券	64,595	72,304	77,304
長期貸付金	1,393	246	303
繰延税金資産	508	49	61
差入保証金	6,158	4,557	4,791
その他	3,494	3,117	3,198
貸倒引当金	△ 3,163	△ 3,054	△ 3,017
<b>資産合計</b>	<b>319,733</b>	<b>341,968</b>	<b>336,659</b>

(注)	(前中間期末)	(当中間期末)	(前 期 末)
1.有形固定資産の減価償却累計額	104,254 百万円	126,856 百万円	108,725 百万円
2.保証債務の残高	1,366 百万円	821 百万円	1,093 百万円
3.手形割引高	51 百万円	46 百万円	87 百万円

(単位 百万円)

期 別 科 目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前 期 末 (平成19年3月31日現在)
<b>[負債の部]</b>			
<b>流動負債</b>	<b>100,758</b>	<b>120,018</b>	<b>104,104</b>
支払手形及び買掛金	31,848	31,112	26,547
短期借入金	43,238	54,820	50,209
1年以内償還予定社債	60	10,160	60
未払金	4,220	5,132	6,123
未払法人税等	7,134	3,505	8,404
賞与引当金	2,733	1,679	1,461
役員賞与引当金	—	2	230
事業整理損失引当金	1,954	1,954	1,954
設備関係支払手形	4,814	7,777	3,655
その他	4,754	3,873	5,457
<b>固定負債</b>	<b>102,808</b>	<b>95,650</b>	<b>105,534</b>
社債	31,480	21,320	31,450
転換社債型新株予約権付社債	14,000	14,000	14,000
長期借入金	39,633	41,169	38,765
繰延税金負債	13,302	14,993	17,417
退職給付引当金	2,783	2,349	2,564
役員退職慰労引当金	—	502	—
その他	1,609	1,315	1,336
<b>負債合計</b>	<b>203,567</b>	<b>215,668</b>	<b>209,639</b>
<b>[純資産の部]</b>			
<b>株主資本</b>	<b>94,838</b>	<b>97,990</b>	<b>97,044</b>
資本金	28,663	28,663	28,663
資本剰余金	29,972	29,975	29,973
利益剰余金	36,904	40,128	39,148
自己株式	△ 701	△ 776	△ 741
評価・換算差額等	<b>19,199</b>	<b>26,892</b>	<b>28,606</b>
その他有価証券評価差額金	23,314	26,557	29,883
為替換算調整勘定	△ 4,114	335	△ 1,276
少数株主持分	<b>2,128</b>	<b>1,417</b>	<b>1,369</b>
<b>純資産合計</b>	<b>116,166</b>	<b>126,300</b>	<b>127,020</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>319,733</b>	<b>341,968</b>	<b>336,659</b>

## 中間連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	期 別		
	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	100,280	84,288	184,362
売上原価	72,443	59,839	132,142
売上総利益	27,836	24,448	52,220
販売費及び一般管理費	21,896	17,015	39,167
営業利益	5,940	7,432	13,053
営業外収益	657	827	1,657
営業外費用	1,727	1,723	3,355
経常利益	4,869	6,537	11,355
特別利益	9,625	283	13,660
特別損失	6,571	803	8,240
税金等調整前 中間(当期)純利益	7,923	6,017	16,775
法人税、住民税及び事業税	6,573	2,692	10,059
法人税等調整額	△ 2,656	△ 29	△ 1,873
少数株主利益	—	26	33
少数株主損失	10	—	—
中間(当期)純利益	4,016	3,328	8,555

(注) (前中間期) (当中間期) (前 期)

### 1. 営業外収益の主要項目

受取利息	133 百万円	210 百万円	308 百万円
受取配当金	295 百万円	313 百万円	560 百万円
為替差益	—	—	313 百万円

### 2. 営業外費用の主要項目

支払利息	830 百万円	888 百万円	1,645 百万円
持分法による 投資損失	356 百万円	397 百万円	791 百万円
為替差損	0 百万円	148 百万円	—

## 中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで) (単位 百万円)

科目	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	28,663	29,973	39,148	△ 741	97,044
中間期中の変動額					
剰余金の配当			△ 2,348		△ 2,348
中間純利益			3,328		3,328
自己株式の取得				△ 42	△ 42
自己株式の処分		2		6	8
株主資本以外の項目の 中間期中の変動額(純額)					
中間期中の変動額合計	—	2	979	△ 35	946
平成19年9月30日残高	28,663	29,975	40,128	△ 776	97,990

科目	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他附属非支配株主に 対する評価調整	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	29,883	△ 1,276	28,606	1,369	127,020
中間期中の変動額					
剰余金の配当					△ 2,348
中間純利益					3,328
自己株式の取得					△ 42
自己株式の処分					8
株主資本以外の項目の 中間期中の変動額(純額)	△ 3,326	1,612	△ 1,714	48	△ 1,666
中間期中の変動額合計	△ 3,326	1,612	△ 1,714	48	△ 720
平成19年9月30日残高	26,557	335	26,892	1,417	126,300

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

科目	期 別		
	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,984	1,931	14,488
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,146	△ 15,737	△ 2,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 23,946	467	△ 15,654
現金及び現金同等物に係る 換 算 差 額	△ 15	347	208
現金及び現金同等物の増減額 (減少・△)	△ 8,831	△ 12,991	△ 3,881
現金及び現金同等物の期首残高	49,914	46,109	49,914
新規連結子会社に係る現金 及び現金同等物の期首残高	77	—	77
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	41,160	33,118	46,109

## 中間貸借対照表

(単位 百万円)

期別 科目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
[資産の部]			
流動資産	106,427	105,376	116,129
現金及び預金	32,187	21,197	37,437
受取手形	13,480	13,211	13,722
売掛金	34,085	40,410	36,090
たな卸資産	20,644	22,563	21,592
繰延税金資産	2,281	1,595	1,914
その他	3,783	6,452	5,410
貸倒引当金	△ 36	△ 54	△ 38
固定資産	178,272	201,060	190,218
有形固定資産	36,182	44,227	37,482
建物	10,207	14,513	10,619
機械及び装置	10,787	11,925	10,871
土地	10,885	11,225	11,225
その他	4,301	6,563	4,766
無形固定資産	257	364	278
投資その他の資産	141,832	156,467	152,457
投資有価証券	56,636	65,072	69,161
関係会社株式	49,816	56,418	48,433
関係会社出資金	8,537	11,018	9,482
長期貸付金	358	241	294
関係会社長期貸付金	22,929	21,306	22,292
その他	6,924	6,532	6,909
貸倒引当金	△ 2,738	△ 2,568	△ 2,563
投資損失引当金	△ 631	△ 1,553	△ 1,553
<b>資産合計</b>	<b>284,700</b>	<b>306,436</b>	<b>306,347</b>

(注)	(前中間期末)	(当中間期末)	(前期末)
1.有形固定資産の減価償却累計額	49,143 百万円	52,038 百万円	50,142 百万円
2.保証債務の残高	8,290 百万円	8,381 百万円	7,825 百万円
3.手形割引高	32 百万円	46 百万円	24 百万円
4.担保に供している資産	7,820 百万円	7,613 百万円	7,622 百万円

(単位 百万円)

期別 科目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
[負債の部]			
流動負債	74,933	96,820	86,253
支払手形	16,269	18,035	16,941
買掛金	13,568	14,346	13,242
短期借入金	27,913	39,095	38,213
1年以内償還予定社債	—	10,000	—
未払法人税等	6,420	2,060	7,500
賞与引当金	1,928	874	850
事業整理損失引当金	1,954	1,954	1,954
設備関係支払手形	2,925	7,063	737
その他	3,954	3,390	6,814
固定負債	84,389	77,691	86,325
社債	31,000	21,000	31,000
転換社債型新株予約権付社債	14,000	14,000	14,000
長期借入金	25,810	27,279	23,926
繰延税金負債	10,688	12,429	14,645
退職給付引当金	1,686	1,315	1,543
役員退職慰労引当金	—	479	—
預り保証金	1,204	1,186	1,210
<b>負債合計</b>	<b>159,323</b>	<b>174,512</b>	<b>172,579</b>
[純資産の部]			
株主資本	104,751	108,130	106,937
資本金	28,663	28,663	28,663
資本剰余金	29,972	29,975	29,973
資本準備金	29,972	29,972	29,972
その他資本剰余金	0	3	1
利益剰余金	46,817	50,268	49,042
利益準備金	1,196	1,196	1,196
その他利益剰余金			
配当積立金	16	16	16
特別償却準備金	83	53	66
別途積立金	39,735	44,935	39,735
繰越利益剰余金	5,786	4,067	8,028
自己株式	△ 701	△ 776	△ 741
評価・換算差額等	20,625	23,794	26,830
その他有価証券評価差額金	20,625	23,794	26,830
<b>純資産合計</b>	<b>125,376</b>	<b>131,924</b>	<b>133,768</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>284,700</b>	<b>306,436</b>	<b>306,347</b>

## 中間損益計算書

(単位 百万円)

科目	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	62,134	67,192	127,407
売上原価	47,266	50,334	96,439
売上総利益	14,867	16,858	30,968
販売費及び一般管理費	10,252	10,358	20,271
営業利益	4,615	6,500	10,696
営業外収益	803	844	1,544
営業外費用	616	1,137	1,209
経常利益	4,802	6,207	11,031
特別利益	10,495	67	14,273
特別損失	6,250	539	7,998
税引前中間(当期)純利益	9,047	5,735	17,306
法人税、住民税及び事業税	6,106	1,990	9,310
法人税等調整額	△ 2,524	169	△ 2,424
中間(当期)純利益	5,465	3,575	10,420

(注)

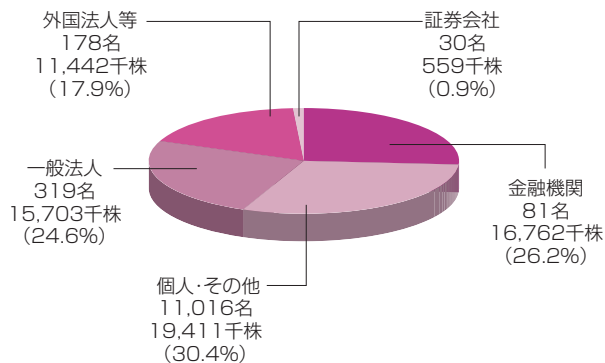
	(前中間期)	(当中間期)	(前期)
1. 営業外収益の主要項目			
受取利息	271百万円	331百万円	578百万円
受取配当金	284百万円	302百万円	537百万円
為替差益	210百万円	—百万円	343百万円
2. 営業外費用の主要項目			
支払利息	242百万円	361百万円	526百万円
社債利息	354百万円	294百万円	648百万円
為替差損	—百万円	367百万円	—百万円

## 株式の状況

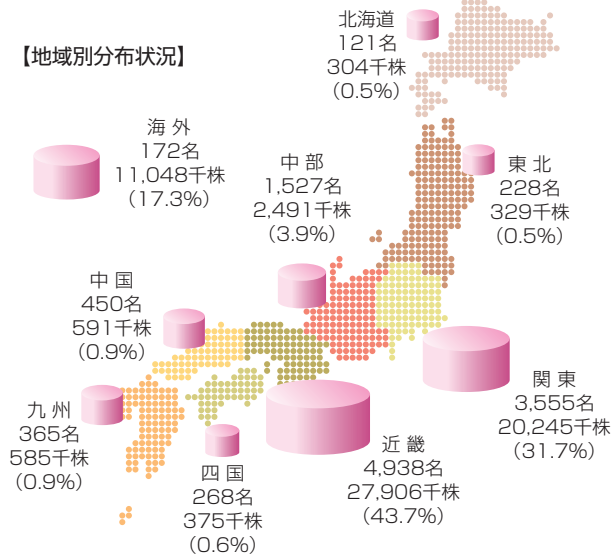
平成19年9月30日現在

●発行可能株式総数	200,000,000株
●発行済株式の総数	63,878,505株
●株主総数	11,624名
うち単元株主数	9,986名
●新株予約権の状況	
新株予約権の数	2,800個
目的となる株式の種類および数	普通株式 6,086,956株
新株予約権の発行価額	無償

### 【所有者別分布状況】



### 【地域別分布状況】



## 新製品紹介

### 《フィルター付点眼容器（NP容器）》

2007年5月、フィルター付の点眼容器（NP容器\*）を製品化しました。

通常、医療用点眼薬には腐敗や細菌汚染を防ぐための防腐剤が使用されていますが、近年、防腐剤による角膜障害やアレルギー等の影響がクローズアップされており、防腐剤濃度の低い点眼薬や防腐剤無添加の点眼薬の開発が求められています。これらのニーズに応えるため、わかもと製薬株式会社と共同で、内容液の無菌性を保ち、防腐剤の使用を抑えることが可能な目に優しい点眼容器を開発しました。

このNP容器は、2種類のフィルター（親水性と疎水性）を装着することにより、外部からの微生物の侵入や異物の混入を防止するとともに、容器中に清浄な空気を取り込むことが可能となりました。現在広く使われている点眼容器と同サイズで、滴下も容易で非常にコンパクトであり、ユーザーの視点に立って、ノズルの視認性やボトルの透明性にも配慮しています。

また、防腐剤を使わずに点眼薬の安全性を保つという考え方から、2種類のフィルターを使用した点、さらに、ユーザーのかかえている問題を解決するため、新技術・新素材を導入した点が高く評価され、財団法人日本産業デザイン振興会の主催する「2007年度 グッドデザイン賞（Gマーク）」及び「大

阪デザインセンター選定グッドデザイン」を受賞しました。

ニプロでは、今後も粘膜投与システムにおける防腐剤フリーの容器開発に邁進してまいります。

※NP容器：None-preserved Multi-dose Containerの略。防腐剤の添加を抑えることのできる多回投与容器



## 事業展開

### <埼玉第一製薬株式会社の全株式取得>

2007年5月、経皮吸収型投与システム分野の研究開発型受託製造の幅を広げるため、同社の全株式を取得しました。

### <フランス ビオコープ SA社の全株式取得>

2007年7月、フランス市場における透析関連製品の販売強化のため、当社の海外子会社・ニプロヨーロッパは同社の全株式を取得しました。



### 《ニプロ輸液セット ミクロチェック®》

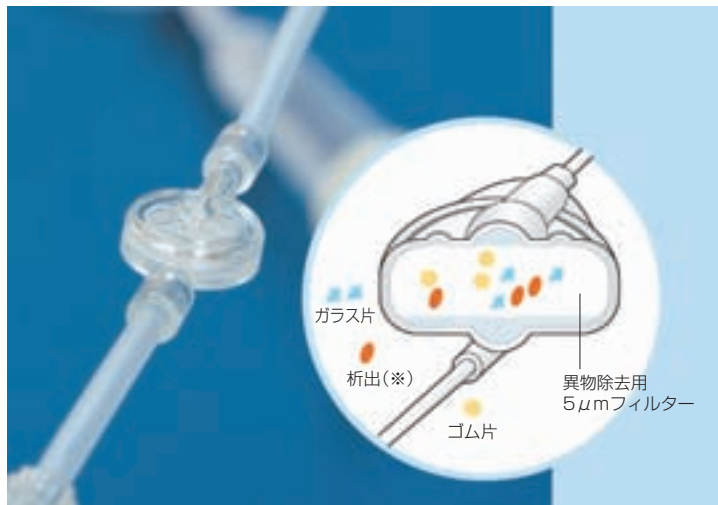
2007年6月、孔径 $5\mu\text{m}$ の小型フィルターを組み込んだ輸液セット「ニプロ輸液セット ミクロチェック®」の販売を開始しました。

輸液セットは、薬剤と溶解液を混合した輸液剤を一定時間かけて投与するために輸液剤容器と生体に接続し、生体の静脈中に点滴投与する医療器具です。

薬剤を溶解液と混合調整する際、アンプル容器のガラス片が混入したり、混合された薬剤成分同士の化学反応により沈殿物が生じたり、粉末剤が完全に溶けずに固形成分が残ったままになる場合があります。国が定める基準では、輸液セットの流路中に孔径 $210\mu\text{m}$ 以下のメッシュ型フィルターの装着が義務づけられていますが、これでは肉眼で確認できる程度の比較的大きな異物しか除去することができません。

しかし、このミクロチェック®は日本薬局方で規定される注射剤中の不溶性微粒子の最少異物径基準 $10\mu\text{m}$ 以上の異物をほぼ完全に除去でき、小面積フィルターでありながらも輸液投与速度として必要な流量を確保することができます。

輸液中の超微粒子の異物除去が可能な本製品は、患者さんのQ.O.L向上に一層貢献できるものと考えます。



※薬剤成分同士の化学反応により生じた沈殿物

### <海外拠点の開設>

医療機器事業における積極的な販売展開を図る一環から、以下の海外拠点を開設しました。

2007年7月 ニプロホスピタルプロダクトINC (フィリピン共和国 マニラ)

## 会社の概要

### ニプロ株式会社 NIPRO CORPORATION 平成19年9月30日現在

設立 昭和29年7月8日  
資本金 28,663,266,783円  
事業内容 医療機器・医薬品の製造・販売  
硝子製品の製造・販売  
従業員数 2,101名  
上場金融商品取引所 東証・大証市場第1部（証券コード 8086）  
ホームページ <http://www.nipro.co.jp/>

#### ■主要な事業所および工場

本社 大阪市  
支店・営業所 札幌市、盛岡市、秋田市、仙台市、郡山市、新潟市、松本市、水戸市、さいたま市、千葉市、東京都文京区、立川市、横浜市、静岡市、名古屋市、岐阜県羽島郡、金沢市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、高松市、大野城市、熊本市、鹿児島市  
工場 大館工場（秋田県大館市）、大津工場（滋賀県大津市）  
研究所 総合研究所（滋賀県草津市）、医薬品研究所（滋賀県草津市）

#### ■ニプログループ関係会社

##### 医療機器関係

《国内》ニプロ医工株式会社（群馬県館林市）  
《海外》アメリカ ニプロメディカルコーポレーション（フロリダ州）  
ニプロダイアピーティーズシステム,INC.（フロリダ州）  
パナマ ニプロメディカルパナマS.A.  
メキシコ ニプロメディカルメキシコS.A.DE C.V.（アズレス郡）  
ペルトリコ ニプロメディカルペルトリコ,INC.  
ベルギー ニプロヨーロッパN.V.（ザヴェンテム市）  
フランス ニプロビオコープSA（サン・ボージュール市）  
ロシア 有限会社ニプロメディカル（モスクワ市）  
ブラジル ニプロメディカルLTD.（サンパウロ州）  
ニプロカルディオLTD.（サンパウロ州）  
中国 尼普洛(上海)有限公司（上海市）  
尼普洛貿易(上海)有限公司（上海市）  
タイ ニプロタイランドコーポレーション（アユタヤ県）  
ニプロセールスタイランドCO.LTD（バンコク市）  
インド ニプロメディカルインドPVT LTD（ムンバイ市）  
フィリピン ニプロホスピタルプロダクトINC（マニラ市）  
シンガポール ニプロアジアPTE LTD  
南アフリカ ニプロサウスアフリカPTY LTD（ヨハネスブルグ）  
アラブ首長国連邦 ニプロミドルイーストFZE（ドバイ）

##### 医薬品関係

《国内》ニプロファーマ株式会社（大阪市）  
ニプロジェネファ株式会社（東京都文京区）  
東北ニプロ製薬株式会社（福島県岩瀬郡）  
全星薬品工業株式会社（大阪府堺市）  
埼玉第一製薬株式会社（埼玉県春日部市）  
株式会社バイファ（北海道千歳市）

##### 器材関係

《国内》新和商事株式会社（東京都文京区）  
《海外》上海日硝保温瓶胆有限公司（中国上海市）

##### その他

《国内》ニッショール保険サービス株式会社（大阪市）  
和秀工業株式会社（大阪府堺市）

#### ■取締役および監査役 平成19年9月30日現在

代表取締役社長	佐野 實
代表取締役専務	田中 繁輝
常務取締役	石田 靖也
常務取締役	佐野 嘉彦
常務取締役	佐藤 誠
取締役	長南 正人
取締役	若槻 一男
取締役	山部 哲彦
取締役	池内 弘
取締役	箭内 正孝
取締役	渡辺 紀明
取締役	服部 博行
取締役	吉岡 清貴
常勤監査役	小林 博
監査役	続 葛修一
監査役	和田 正道

## 株主メモ

## m e m o

- 事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日
- 株主確定のための基準日** 定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日
- 単元株式数** 1,000株
- 公告方法** 電子公告により行います。  
<http://www.nipro.co.jp/>  
事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人** 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所** 〒530-0057 大阪市北区曽根崎二丁目11番16号  
みずほ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
- 【郵便物送付先】** 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- 【電話お問い合わせ先】** 電話0120-288-324（通話料無料）  
専用ホームページ“お手続き内容”で一部届出用紙の出力ができます。  
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>
- 同取次所** みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店  
(トラストオフィスを除く)  
みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店  
(プラネットブースを除く)
- 単元未満株式の買取請求取扱について** 上記の事務取扱場所または取次所にてお取扱いいたします。  
保管振替制度をご利用の株主様におかれましては、参加者(証券会社等)へお申し出ください。
- 単元未満株式の買増請求取扱について** ご所有の単元未満株式と併せて1単元の株式となる数の株式の買い増しを会社に請求することができます。一部の期間<sup>(注)</sup>を除き、いつでもご利用いただけます。上記の事務取扱場所または取次所にてお取扱いいたしますので、詳細につきましては株主名簿管理人までお問い合わせください。(郵送でのお手続きも可能です。)
- (注) 毎年3月および9月のそれぞれ中旬から末日までは、受付を停止させていただきます。  
また、当社が買増しのご請求に対応できる株数を保有していない場合にはご利用いただけません。
- 株主優待制度** 3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に、一律JCBギフトカード1万円分(1,000円×10枚)を6月下旬に送付する予定です。

